

平成 26 年度宮城野図書館利用者懇談会実施報告

- 1 日 時 平成 27 年 2 月 18 日（水）13 時 30 分～15 時 15 分
- 2 会 場 宮城野図書館 視聴覚室
- 3 参加者 宮城野図書館利用者 7 人
（個人利用者 2 人、小学校・児童館・ボランティア団体各 1 人、市民センター 2 人）
宮城野図書館職員 4 人
- 4 配布資料 「平成 26 年度宮城野図書館実施事業」「平成 26 年度宮城野図書館利用者アンケート集計結果」「仙台市図書館要覧平成 26 年度」ほか

5 内 容

- ・懇談会の趣旨説明（宮城野図書館長）

図書館サービスのいっそうの充実のために、利用者の意見を聞くことが重要と考えており、その具体策の一つが利用者アンケートであり、もう一つが懇談会である。率直な意見をお聞かせいただき、今後の図書館運営に活かしてまいりたい。

- ・宮城野図書館実施事業とアンケート結果の説明（宮城野図書館主任 2 人・館長）

平成 26 年度の実施事業、展示テーマ及びアンケートの集計結果について説明した。

- ・懇談

出席者全員からご意見等をいただき、図書館から説明・回答を行った。

6 意見・要望

<個人利用者>

- ・新刊購入の件でお聞きしたい。人気作家の新刊書の在庫がないが、予算の関係もあると思うが、どれくらい買うのか。

（図書館から）

新刊は利用者の予約数などを勘案し購入している。図書館司書による選書会議で購入冊数を決めている。村上春樹、宮部みゆき、百田尚樹など、本によっては在庫になるまで半年以上かかるものもある。

- ・旅行、特に温泉の本をよく借りるが、古いものが多い。旅館の料金設定が変わっていて、旅館側から、いまどきこの料金では・・・と言われたりする。

（図書館から）

順次新しいもの買い換えている。図書館は資料の保存という役割もある。

- ・貸出期間が前は 1 週間で、回転が早かった。

（図書館から）

特に CD や DVD など 1 週間でいいという意見はあるが、働いている人などは 1 週間では短いかもしれない。

- ・アンケート結果の職員の対応について、悪いという回答もあるが、人それぞれ感じ方が違うということだと思う。自分はみんな親切にしてもらっている。
- ・貸出のとき順番に並ばない人がいるので注意してほしい。利用者同士で注意するとトラブルになりかねない。

<小学校>

- ・おはなし会の開催時間についてだが、小学校 2 年生も水曜日はたいがい 5 時間授業であり、早く帰れる日はほとんどないので、おはなし会には間に合わない。いまの子どもたちは時間の余裕がない。

(図書館から)

開催時間を遅らせることも考えたが、日が短い時期は暗くなってしまう。土・日の開催も考えたことがあるが、土・日は図書館の職員が半分になるので、対応が難しい。

<児童館>

- ・あかちゃんほっぺやおはなし会にはどれくらいの参加者があるのか。

(図書館から)

あかちゃんほっぺは 1 回ではできないので、内容は同じであるが 2 回に分けている。2 回合わせて 30~40 人の参加がある。3 時からのおはなし会は参加者が減っている。幼稚園以下の子どもが 5、6 人程度である。

- ・児童館でも月 1 回おはなし会をやっている。子どもの活字離れが進んでおり、本が好きな子はおはなし会に参加するが、他の子はおはなし会に参加しない。あるいは静かに聞くことができない。図書館という環境の中で、参加させることは可能か。

(図書館から)

大歓迎である。

- ・3 時開催に来れる子は少ないが、開催時間の変更はできないか。

(図書館から。前出のとおり)

- ・図書館のほうからこちらに対して困っていることはないか。協力できることがあるかもしれない。児童館に来る人が駐車して困ると、近くの商業施設から言われたことがある。

(図書館から)

児童館で遊んだ勢いのまま図書館に駆け込んでくる子どもがいる。

<ボランティア団体>

- ・宮城野図書館はバリアフリー、あるいは障害者サービスに積極的に取り組んでいる。

今回登録したサピエ図書館とデイジーはどういうものか、それから電子資料について知りたい。

(図書館から)

日本点字図書館の関連機関のサピエ図書館に視覚障害者用のデータが登録されている。宮城野図書館では、利用者からリクエストを受けて、サピエ図書館からデータをダウンロードしてデイジー資料を作成し、お貸しするというサービスを始めた。カセットテープとか点字といった今までの媒体と違って、本まるまる一冊がディスク1枚に収まるのでデイジーは使いやすい。電子書籍は仙台市ではまだ導入していない。費用がどうなのかということもあり、今後の検討課題である。

- ・利用者アンケートのレファレンスなどを知らないという回答が多いのは、利用者側の問題である。図書館について、ただで本を借りて読むところというイメージを持っていて、調べものなどのときの図書館の活用の仕方が悪いのだと思う。たとえば市民センターの催しの参加者が図書館に降りて来て、催しの内容について調べるといいう形で、知識を広げたり先に進んだりということができるはずである。
- ・視覚障害者の活動を支援するアイサポートで、中途失明者の街あるきを企画している。その場所として、宮城野図書館を提供してはどうか。拡大読書器やデイジーの利用もロコミなどで広まる。読書は一番安全にできる趣味だ。

<市民センター>

- ・イベントのお知らせについて、集客には市民センターでも苦勞している。図書館とお互いメリットがあることをやりたい。ブックアソシエートについては、夕方図書館でもチラシ配りをして何とか8名の参加があった。2階・3階の市民センターの掲示板で図書館の掲示を行ってもいい。サークル会員募集の掲示板がいいのではないかな。
- ・図書館の休館日についての問い合わせが市民センターにはいることがある。図書館の休館日について、毎月発行の市民センターだよりもに掲載してもいい。
- ・地元学で冊子を作成したときに元となった資料がけっこうある。写真などの取扱いについて図書館と相談したい。貸出しなど活用できないか。